

西光

第177号
お十夜号

平成30年
10月26日
発行

浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺

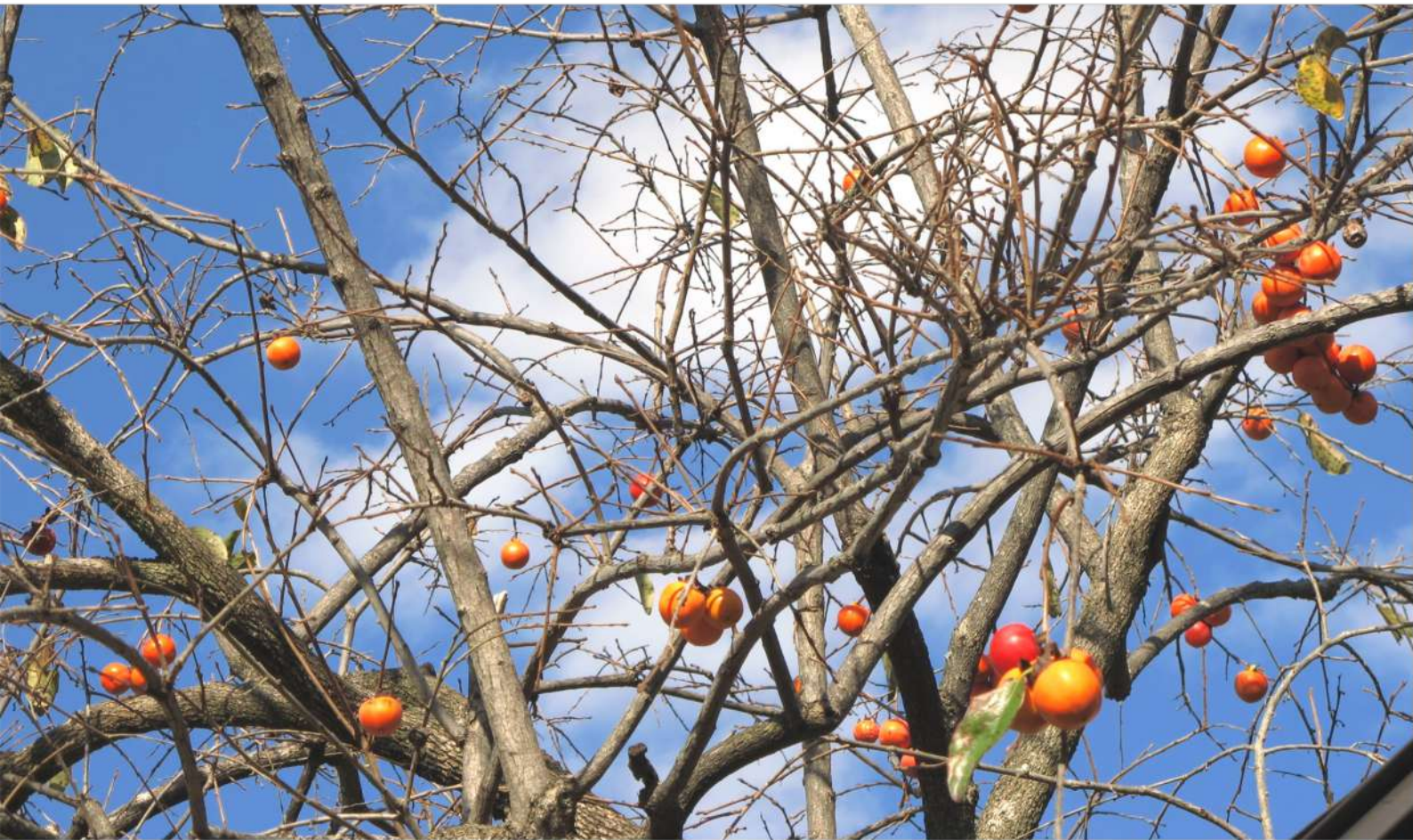
住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142



お十夜

11月23日(金・祝)13:00～

13:00～13:30 お十夜のお勤め

※お説教の前後に塔婆回向をいたします。

14:00～15:00 法話と琵琶の演奏

説教師:京都市 きゅうむじ 休務寺住職

ほりもとしゅんじょう
堀本俊紹師

お十夜のお誘い

この度のお十夜には京都から休務寺住職の堀本俊紹師に初めてお出で頂きます。

堀本師は私より三歳若いのですが、私と同じような境遇で三年前に師匠のお父様が亡くなり、まだ二十代で若くして住職に就かれました。

そしてこの堀本師は琵琶奏者でもありません。琵琶奏者としての堀本師は筑前琵琶橘流 日本橋会 堀本旭紹（きよひさ）として活動されています。せつかくですから今回のお十夜では法話に加え、琵琶の演奏もして頂きます！

琵琶といっても恥ずかしながら琵琶法師の「耳なし芳一」の話であったり「平家物語」の「祇園精舎の鐘の声」といったくらい知識しかありません。

なかなか琵琶の音色を聴く機会はありません。独特の世界観が味わえることでしょう。一度で二度おいしい今回のお十夜。どうぞ皆様お誘い合わせて是非是非お参り下さい！



豆ご飯

お十夜は浄土宗独自の行事で、このお十夜には播州のお寺ではそれぞれの寺独自の豆ご飯をこしらえるところが多いようです。西光寺もどれくらい昔からお十夜に豆ご飯を作っているのかは不明ですが、当時はこの大きな豆ご飯のおにぎりが馳走であったのではないかと考えられます。焦がさないように弱火で大豆を根気よくじっくりと煎り、「リゴリ」と擦ってうちわでばたばた扇いで皮を取り除き、塩だけの味付けで炊きあげる素朴なご飯です。

靈閑だより

振り返ってみると、昨年先代から住職を引き継ぎ今に至るまで四十七人の方を送らせて頂きました。僧侶にとつて人を送ることとは日常とはいえ、これだけ多くの別れをしなければならぬのはやはり辛いものです。一方で親から子へといのちのバトンが渡される場に立ち会い、代が替わりまた新たな出会いをさせて頂くこともたくさんあります。

「命」と「いのち」は何が違うのでしょうか。「命」を広辞苑でひきますと(一)生物の生きやゆく原動力。生命力(二)寿命(三)一生、生涯などの意味が出てきます。なるほど物理的な命ということでしょうか。

では「いのち」はどうでしょう。よく広告やキャッチフレーズなどで漢字でかけるものを敢えてひらがなで書いたり、文字と文字の間に・を入れてみたり、文字を寝転ばせてみたりすることがあります。私もサラリーマン時代、企画系の部署にいた頃は毎日こんなことで頭を悩ませていました。話

が少しそれましたが、「この「いのち」とひらがなで書いた場合には「私一人の命ではない、つながっている命、願われている命」というような意味をこの言葉に感じることができないでしょうか。東日本大震災の時に「絆」という言葉が注目されましたが、まさにその正体は「いのち」ではないかと思うのです。私とあなたは繋がっていますよという感覚です。

葬儀や法事はまさにこの「いのち」に向き合う時間です。法事には「事の供養」と「法の供養」があります。

事の供養とは、仏さまやご先祖に対してお香、花、ろうそく、供物をお供えし、お参りされた方々に膳の供養をすることなどです。これがそつなくできたら法事はよしよしと思いがちですが、もう一方の「法の供養」も大事です。法の供養には五種類の供養（五養）があります。

一つ目は「休息供養」。今日は忙しい毎日を送る我々に仏さまが与えて下さった休息の口。今日一日心静かに亡き人と向き合おう、つまり、いのちと向き合う大切な一日です。（実際はゆっくりとおれませんが）



二つに「栄宮供養」。この私のいのちの栄えは、私ひとりで成せるものではない、親がいて、またその親がいて…私の前に何人の親がおられるか。営々と繋がるいのちに想いを馳せてみる。法事の機会に家系図を作ってみるのもいいものです。可視化するとより一層いのちの繋がりを実感できます。子や孫はなんとも思ってくれなくとも、きつと役立つ日がくるはずだと思いたし。私も先代がいとも細かく書き残してくれましたので、大いに助かっております。

三つに「修行供養」。栄宮に気づいたら、今日一日だけでもいいじゃないですか、実践です。「至らない自分ですが」「おかげさま」「ありがとう」の気持ちを行動にうつしましよ。

四つに「孝行供養」。今は「親孝行するものもないも親次第」とも「親孝行したくないのに親がいる」とも揶揄される世の中です。いる時はなんとも思わないのに、その存在を

失ってはじめてその恩恵に気づくことはたくさんあります。やはり「親孝行したい時には親はなし」です。某アーティストの曲にもこうあります「サヨナラから はじまること が たくさん あるんだよ」と。今からでも遅くありません。

五つに「追善供養」。「私はいつたいどれだけの恩をこの人から受けたのだろうか、そして私はいつたい何をしてあげることができたのだろうか」と。恩を返せる相手がいない時には、それを別の誰かに送る。親から受けた恩を子に、孫に、友達に、同僚に送る。まさにいのちのつながりにほかなりません。実はそれが最大の供養になるのかもしれない。



気になる…



お参りの時、お鈴はチーンと鳴らしてはいけない？

前回「のし袋の表書き」第二弾を書くことになってしまいましたが、それはまたの機会にしまして…タイトルにある件について、「テレビでやってましたけど、そうなんですか？私ずっとそうしてますけど…」と最近よく聞かれますので、私見を書いてみます。

家のお仏壇にご飯やお水、お茶をお供えしたり、頂きものをお供えする際に、チーン、チーンと二、三回お鈴を鳴らされる方が多いかと思われまます。私はそのテレビ番組を見ていないのですが、恐らくこのようにされる方が多い背景を受けて、そのお鈴を実は鳴らしてはいけないという話になったのではないかと思います。

正確に言うと「鳴らしてはいけない」ではなく「特段鳴らすことはない、鳴らす必要はない」ということかと思えます。というのもお

鈴は木魚や伏鉦と同様にお経をあげる際に使用する楽器の一つで、お経の出だしや終わりの合図などをするものです。お経が一旦始まってしまえば「はい、皆さんも一緒にー」などとアーティストのライブのように言葉を挟めませんので、お鈴ですべて合図するわけです。もちろん前提として、その場でお経をあげる人たちがその合図の意味を理解しているということが必要です。

ということはお経をあげる以上、お鈴の出番がないということなんです。お鈴がなくなったということは「お、今からお経がはじまるんだな」と仏さまも「先祖も威儀を正してお待ちになっている…かどうかは分かりませんが、お鈴を鳴らしただけでその場を立ち去ってしまうと、「おい、お経読まへんのかい」と仏さまもずっとつけてしまうというやつです。人の家の玄関の呼び鈴を二、三回鳴らしてダッシュで逃げる、いわゆるピンポンダッシュみたいなもんです。ですので、鳴らしてはいけないとまではいわないまでも、鳴らす必要がない、ただ静かに手を合わせたらそれでいいという趣旨ではないかと思えます。

とこれが建前ですが、私は家の仏壇に関し

てはその家の人が自由に思うようにお祀りすればよいと思います。「お父さん、おはようさん」「おじいさんおばあさん、今帰ってきたで」「今これ頂いたものやからお供えさせてもらうな」とチーン、チーンと鳴らす、大いに結構ではないですか。子供が見よう見まねでお鈴をチーン、鉦をカンカン、木魚をポクポク。大いに結構なことだと思います。

テレビなどで放送されるとどうしても言葉だけが一人歩きしてしまいますが、あまり小難しいことをいわないで、今まで通りに自分なりの使い方をして頂いたらよいかと思えます。



門前掲示板

十月

用ある時の地藏顔 用なき時の閻魔顔

十一月

けしからんと怒るより

気の毒だなど許してあげよう

お地藏さんが ピンチです!!

例年、八月二十三日の地藏盆には大塩町内六か所と形的の一か所のお地藏さんをお参りさせて頂いております。かつては周り近所の方々が皆でお世話をされておりましたが、今ではほとんどのお地藏さんは管理面においては一人の方に頼っているのが現状です。今回は東ノ丁の延命地藏を取り上げてみます。

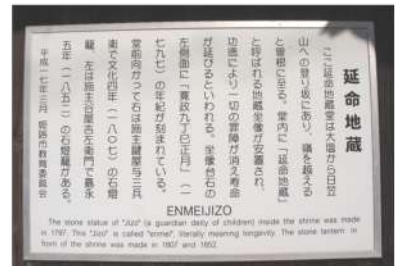
春は桜、秋はのじぎくがきれいな日笠山を登る途中、岩神社のお隣に立派なお堂があり、そこに延命地藏がいらっしゃいます。またの名を日笠地藏ともいいます。ここにはお地藏さんの他に、西国三十三ヶ所の観音様もお祀りされています。これは東ノ丁の有志の方々がお納めになられたものです。皆が皆西



国のお寺参りを簡単にはできない時代にあつては、身近にいつでも西国三十三か所の仏さまを拜めるようにこうして各地で祀られたのです。かつては毎月十七日は観音さま、二十三日はお地藏さまの日として皆お参りされておりましたが、その方々も段々と亡くなられたり、高齢になられたりと、お祀りも続けていくことが難しくなっております。

お地藏さんのお世話と一言にいつても、毎日のお堂の鍵の開け閉め、お堂まわりの掃除、お賽銭の管理、仏さまのお給仕等々、一人の人に全てを任せるのには限界があります。特に日笠のお地藏さんは山を登る途中にあるので坂道を上り下りしなければならず大変です。

中には自治会がお地藏さんを管理しているところもあります。道端で道行く人の安全を願い、地域の人々、子ども達を見守るといってお地藏さんの性格上でできれば特定の誰かというより皆で守っていくのがベストなことだとは思っています。お世話＝負担というイメージが



先行してしまい、中々理解と協力を得るのが難しいのが現状です。今後どのようにお地藏さんを管理していくべきか、どうか皆さまのお知恵を拝借したいと思います!!



お地藏さんの ちよつとしたおはなし



お釈迦さまの没後、未来の仏である弥勒菩薩が悟りを開き仏となって出現するまで五十六億七千万年かかるといわれています。するとその間、現世に仏が不在となってしまうため、六道すべての世界に地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道に現れて人々を救うことを地藏菩薩は釈迦から託されたのであります。ちなみに、お釈迦様が亡くなられてまだ二五〇〇年ほどです。やはり我々もお地藏さんのお世話になるのです。

平成三十一年度年忌表

来年年号が変わると法事の計算をするのが更に変になりそうです。特に三十三回忌や五十回忌は三つも元号をまたぎますので、やはり我々僧侶は昭和九十何年と言う癖をつけておかねばいよいよ即座に答えられなくなつてきそうです。

来年は左記の年にお亡くなりになられた方の年忌法要(法事)があたつております。特に日曜日の午前中ご希望の方は早めにご連絡頂ければ幸いです。年忌があたつておられる方には別紙にてご案内しておりますが、念のため、左記の年忌表をご覧になつてご確認下さい。

一周忌	平成三十年没
三回忌	平成二十九年没
七回忌	平成二十五年没
十三回忌	平成十九年没
十七回忌	平成十五年没
二十五回忌	平成七年没
三十三回忌	昭和六十二年没
五十回忌	昭和四十五年没

逝去の報

慎んでお悔み申し上げます。

生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

佐土 杉浦勝子さん

九月八日没(八十三歳)

中ノ丁 瀆本壽子さん

十月五日没(八十六歳)

東ノ丁 井川雅由さん

十月六日没(八十四歳)

寺子屋



仏教にまつわる様々のナゼ?を皆で一緒に考え、学んでいきましょう。皆様のお越しをお待ちしております。

【今後の予定】

十一月七日(水) 十二月六日(木)

一月十五日(火) 二月十八日(月)

三月十三日(水)

※いずれの日も午後一時半～午後三時

本山 永観堂のもみじ

永観堂が一年で最も美しい時期を迎えます。シーズンのはじめは緑・黄・赤の色とりどりのもみじを楽しめ、それが徐々に真っ赤に染まって紅葉の最盛期を迎え、シーズン後半には辺り一面に散つたもみじのじゅうたんが楽しめます。

今年の特別寺宝展&ライトアップは、十一月三日(土)～十二月二日(日)までです。



除夜の鐘

一年の最後は除夜の鐘で締めくくりましょう。本堂では新年のお勤め(修正会)を行います。鐘を撞き煩惱を吹き飛ばし、仏さまに新年のご挨拶をいたします。午後十一時四十分頃に開門いたします。年末年始、どうぞ健やかにお過ごしください。

